

## 葉身分析の見方

項目	
貯蔵性炭水化物(%)	芝の体力の指標となります。含有を大きく低下させない事が安定した生育に重要となります。
全炭水化物(%)	光合成量を表し、年間通して高い含有を維持することを推奨いたします。
全糖(%)	生育期に多く消費され、特に夏場は含有が低下します。
全窒素(%)	過剰な含有は、貯蔵性炭水化物を大きく消費するので、適度に含有を抑える事が重要と言えます。
リン酸	炭水化物の代謝(でんぷん→糖)、発根、芝の生産の働きがあります。生育期は多く施肥される事で含有が高くなります。
カルシウム	細胞膜を強化し、耐病性耐暑性を高め、窒素の過剰吸収を抑制する働きがあります。高温乾燥、低温で吸収阻害の発生が見られます。
マグネシウム	葉緑素の構成要素となり、芝生体内のリン酸の移動を助けます。秋から冬期に含有が高くなります。
カリウム	炭水化物の合成、蒸散の制御等の働きがあり、また芝草の細胞膜を厚くし、耐暑性、耐寒性、耐踏性を高めます。
銅	葉緑体に多く含まれ、光合成に関与し、冬期に高い含有が見られます。
亜鉛(Zn)	葉緑素の形成、光合成、植物ホルモンの合成に関与し、欠乏すると葉の黄化が見られます。
鉄	葉緑素の合成に不可欠で、欠乏は光合成が低下し、葉の黄化が見られます。冬期に含有が高くなる傾向があります。
マンガン	葉緑素、光合成の生成に関与し、欠乏は鉄欠乏症に似ています。冬期に含有が高くなる傾向です。
ケイ酸	光合成機能の向上、過剰な窒素吸収を抑制、組織機能を高めて水分の保持、病害虫からの抵抗性を高めます。